平成１９年６月１日発行

かまぼこ

第２４号

発　行　わがまち大田蒲田西地区推進委員会
編　集　地域情報紙編集委員会

わがまちの顔

矢口消防団長　若林　登

今回のわがまちの顔は矢口消防団長 若林 登様（七十四歳）をお訪ねしました。

若林氏は、二年前まで蒲田西口町会長を勤められました。また、町会役員を永年にわたり勤められ、町会発展に尽力されながら矢口消防団副団長の要職を続けてこられました。

平成17年4月に大田区長より矢口消防団第四代目の団長という名誉ある役職を拝命されました。

そして、現在は消防団の仕事に専念されておられます。この度は意欲的に取り組んでおられるそのお仕事について、いろいろお話を伺いました。

現在の矢口消防署は、昔は蒲田消防署の管内に入っていたそうです。その後、蒲田西地区、西六郷地区、矢口地区が、蒲田消防署から別れて、昭和48年に矢口消防署が開署し、それと同時に矢口消防団が結成されました。

その時には七つの分団で、二百七十名の消防団員で発足しましたが、現在は二百五十七名に減少している状況です。

そもそも、江戸時代に火消しという官民による消防組織があり、その中の町火消しという仕事が、現在の消防団になったのです。

以前は、これにたずさわる人は建築関係や自営業の人が多かったのですが、今はサラリーマンが多くなったため、団員が減少しています。その解決策として消防団員入団促進キャンペーンを実施しております。

若林氏は、昭和48年4月に矢口消防団発足と同時に入団し、その間永年にわたり、その仕事にたずさわっていますが、大変ご苦労の多い仕事だそうです。

火災現場は勿論のこと、一年間の行事は次のようです。

1月に始式、3月に火災予防運動、5月に合同水防訓練、6月にポンプ操法審査会、10月に火災予防運動、12月に歳末特別警戒などがあります。

その他に月例訓練や応急救護指導等があります。また団長として、東京都での数多くの会議に出席しなければなりません。

団長として、もっとも大事なことは、近い将来に必ず起こるであろう大地震や大きな災害時に地域の人々の生命と財産をいかにして守り抜くかを、地域の住民や行政と協力し合って行く事が使命とおっしゃっておりました。

また、地域の防災のリーダーとして、皆さんから信頼される団長となることを信条として毎日を送っていることに目を輝かせてお話して戴きました。

団長の若林氏は放火の無い町、災害の無い町を目指し、地域の安全・安心を日夜願っておられるそうです。

今回の取材を通して感じたのは若林氏の人間性と強い責任感によって培われた「わがまちの顔」をかいま見たという感想が強く残りました。

ほんとうにご苦労様でございます。取材へのご協力ありがとうございました。

（取材　柳通・石渡委員）

特集『蓮沼の昔』

蓮沼（東矢口1丁目　西蒲田2・3・6丁目）

「御本尊は立像で平安末期か鎌倉初期の作とされる。爾来、御本尊は有縁の地と定められたこの地にたたれること八百有餘年におよんでいる。今日に至る世の栄枯盛衰は御本尊の目に、どのように映られたであろうか。」

『福田山（ふくでんざん）華光院（けこういん）蓮花寺』の巻頭で、ご住職はこうつづっていらっしゃいます。

今は熊野神社と並んで建つ蓮花寺はその昔、敷地は蓮沼駅まで及び、交番のある場所には仁王さまが立っていたと云われています。

蓮沼という地でどのような時空が流れていたのでしょうか。

蓮沼という地名の由来

現存する古文書に初めて（蓮沼）の地名が見られるのは、永禄2年（1559）北条氏康が作った「北条分限帳」の中にある

鵜田　新三郎　二十五貫八百三十文　六郷の内　蓮沼

という記述です。

前号のかまにし17第23号「安方の昔」にもあったように、蓮沼も含めこの一帯は「荒ぶる多摩川」と深く関わっています。

武蔵風土記の荏原郡蓮沼村の項に次のような記述があります。

准古玉川この辺を流れ、艮（うしとら）の方　不入斗（いりやまず）盤井神社の傍より海にそそぎしに、いつの頃か水路変遷し、その蹟は沼となり、蓮多く生じたれば、かく名づけたり・・・・。

いつのころからか変遷した水路の跡が沼となり、蓮が多く生えていたので蓮沼と名づけたとの事です。

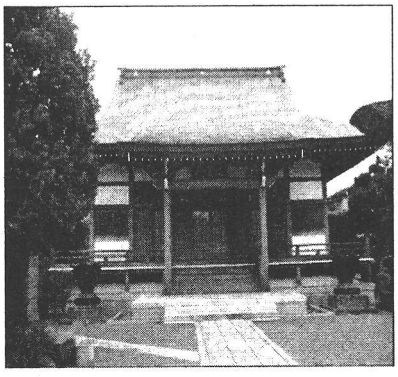
また、嘉禄年間（1225～1227）当時の地頭であった荏原氏が、蓮花寺の後背にあった沼の蓮花を、近郷在住の人々と見るために桟舗を設け、大いに賑わったと言われています。

村に九つある小名（こな）のひとつとして、村の中央の位置に桟舗島の名称が残っていました。

蓮沼の地名は、これより起ったとも云われています。

この二つの伝えからも、このあたりは大雨が降る度に、多摩川が洪水を繰り返し、いくつもの沼ができ、蓮の花がここかしこに咲いていたとうかがわれます。

蓮花寺



蓮花寺

寺伝によると、11世紀に開創され、嘉禄、康元（1225～1256）の頃に荏原郡の地頭荏原兵部有治（えばらひょうぶありはる）が中興（ちゅうこう）したと言われている。荏原氏は天性狩猟を好み、ある時おしどりのおすを射殺した。その夜かのおしどりのめすが、うらみの歌を詠んだ夢をみた。翌朝おしどりを殺した所まで行って見ると、果たしてめすも死んでいた。鳥類にしてまたかくの如しと、菩提心をおこし出家して当寺に入り蓮沼法師となる。のち鎌倉将軍宗尊親王から八丁四方の地を賜り、七堂伽藍を建立したので、中興開山と呼ばれ崇敬されたと云われています。

（日除観音）

本尊の十一面観世音菩薩立像（区指定有形文化財）は天文年間（1532～55）の兵火で、堂宇等が火災にあった際にも、この仏像は焼失を免れたと伝えられている。土地の人は『火除観音』と呼び、信仰を大いに集めるようになった。

（仁王様）

先述の仁王様は池上本門寺の僧との問答に負けた結果、本門寺に取られたという相伝も「武蔵風土記本門寺の項」に記されています。

（民間信仰）

「福田山華光院　蓮花寺」は行事紹介の中で、民間信仰　念仏講として興味あることを記しています。以下は引用です。

蓮沼地区の土着の家二十八戸によって古くから組織されており、戦前までは若い衆の集まりである念仏講と、年寄りの集まりである光明講と二つの講があって、念仏講は毎月十四日に、光

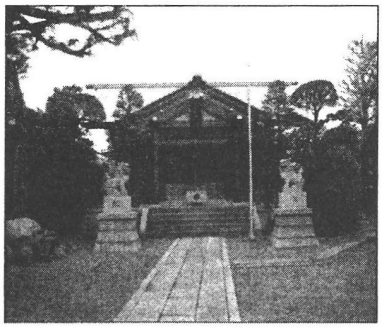
明講は毎月十五日に『お念仏』の集まりを行っていた。

蓮沼はおよそ東急池上線の線路を境として東側（西蒲田3・6丁目）を本村、西側（東矢口1丁目）を前蓮沼と呼び、ふたつの小字（こあざ）に分かれていた。若い衆と年寄りの講は両地区合わせて結成されていた。講員は並木姓、高瀬姓が最も多く、それぞれ七戸が加入し、ついで原田姓で四戸、荻野姓二戸、松本姓と赤川姓が一戸で、他に前記各家の分家が加わっていた。講員の家を交替に宿にして、仏壇に向かって読経と念仏の唱和を行うものであった。終了後は臼でついた餡いり草団子と煮しめを八寸角の五つ重ねの重箱に入れて出すしきたりになっていた。

若い衆の念仏講は昭和の初めに廃絶したが、年寄りの講は昭和49年頃まで続いていたという。往年の旧家の信仰と暮らしの一端をうかがうことができます。

また、高瀬錫男様の資料、東京府編纂、（明治5～7年）蓮沼村によると〈戸口〉として戸数30戸、内僧侶1戸、平民29戸、人口163人、内男81人、女82人となっています。

熊野神社



熊野神社

村の鎮守として蓮花寺の境内にあり、蓮沼法師が神仏のお告げを受け、不思議な夢を見たことにより勧請されたと伝えられています。神仏分離により、分かれました。かつて、蓮沼村の共有田地を神社に寄付するにあたって、並木家、高瀬家、原田家を中心に協議した取り決め事を記した確定証も見つけられています。これが神社境内西側に建てられている顕彰碑のもとになっています。

蓮沼歴

＊西暦430年…飛鳥時代以前より『无（ム）邪（サ）志（シ）』『牟射志』『胸刺』等の地名が見えている。（国造本紀）

＊684年…［日本書紀］に『武蔵国』とある。統一されたのはこの時代からではないかと思われる。

＊735年…『武蔵の国』荏原郡の名称　史上に現れる。

＊12～14世紀（鎌倉　足利時代）にかけて六郷保の名称現れる。この間、蓮沼は郷庄名を失い六郷に含まれていたものと思われる。

＊1559年…北条氏康が家臣の「所領役帳」（分限帳）を作る。

この中に　鵜田新三郎　弐拾五貫八百参拾文　六郷内蓮沼　弐貫八百五拾文　同所河崎内万秀

とあり、蓮沼の地名が初めて現れる。

＊江戸時代に入り『武蔵の国』あるいは『武州』六郷領蓮沼村となる。

＊明治2年…廃藩置県により武蔵は、品川県、小菅県、大宮県となり蓮沼は品川県に属す。

＊大小区実施により一時、品川県第七大区第四小区蓮沼となる。

＊明治4年　小菅県、品川県を廃止して東京府に合する。

東京府第七大区第四小区蓮沼となる。

＊明治22年町村制実施…旧矢口大字、九（蓮沼、今泉、古市場、下丸子、矢口、原、道塚、小林、安方）として矢口村となる。

東京府荏原郡矢口村大字蓮沼

＊昭和3年…町制施行により矢口村は矢口町

東京府荏原郡矢口町大字蓮沼となる。

＊昭和7年…東京市に編入（郡町　合併）蒲田、羽田、六郷、矢口　各町合併

東京市蒲田区蓮沼町となる。

＊昭和18年…東京都制実施（東京府は廃止する）

東京都蒲田区蓮沼町

＊昭和二十二年　東京都35区を22区に整理統合

東京都大田区蓮沼町、蓮沼一丁目、二丁目、三丁目となる。

＊昭和42年に住居表示実施される。

東京都大田区東矢口一丁目、西蒲田二、三、六丁目となり現在に至る。

並木実さんが丹念に調べ上げた資料、高瀬義男様、高瀬日出男様、並木栄三様、高瀬好之様の資料を参考に致しました。

また『福田山華光院　蓮花寺』蓮花寺ご住職のおはなしを参考に致しました。

（取材　山崎・伊藤・瀬川・西澤・六車委員）

ご存知ですか？ 原村梅林の記念碑移設さる

現在の多摩川2-28・斉藤ツヤストドリル株式会社敷地に、かつて原村梅林がありました。この地に行幸（天皇の外出）された明治天皇により、畏れ多くも御製（天皇の作られた歌）を賜り、同所に長い間、記念碑として鎮座されていましたが、去る平成19年1月、お世話になった地に別れを告げ、約四百メートル離れた区立多摩川二丁目児童公園（多摩川2-13・通称リンゴ公園）に移設されました。

本紙7号（平成15年3月1日発行）でご紹介したとおり、「原村の梅林」は今から約百二十年前に観梅の名所として、近郷近在はもとより関東近県まで盛名を馳せ、栄華を極めていました。

その噂が明治天皇のお耳に入り、行幸された際、余りの見事さに感銘され、御心のこもった御製を賜ったのでした。その栄誉に輝く恩賜に、当時の所有者が甚く感激し、後世への文化遺産を視野に記念碑として建立したのです。

しかしその後、時代と共に所有者が転々と替わり、昭和12年5月、梅林は伐採され、先の会社の工場敷地に再生したのであります。しかし、明治天皇の御心が入魂された由緒ある記念碑だけは温存され、「幻の梅林記念碑」として継承されてきた経緯があったのです。

昨年秋、会社の増築計画のため、移設の斡旋を町会と共に区に陳情したのでした。会社・町会・区の三者ともども保存を前提に候補地を模索しましたが、当初妙案に窮し苦慮していました。

しかし区の文化財保護の対象であることから、先の公園に代替地案の提示があったのです。さらに過半の移設料をも含む寛大なる裁断が区より下され、感謝の気持ちで満足に解決できたのです。

お蔭様で会社・町会・区と、三位一体のご尽力により安住の地が確保され、「やんごとなき」案件であっただけに「ねんごろ」に、移設が行われたのでした。

明治天皇も「ホッ」と安堵されたことでしょう。

「碑　文」　明治天皇　御製

梅の花咲けるを見禮は　婦留雪に
冬古もる身の　はつかし起か奈
（梅の花咲けるを見れば　降る雪
に冬こもる身の　はずかしきかな）

（取材　滝口委員）

蒲田西特別出張所管内

人口	男	29，469人
	女	27，092人
	計	56，561人
世帯		29，918世帯

平成19年5月1日現在

編集後記

わがまちの顔では、矢口消防団長として地域の安全・安心を日夜願って活躍されている若林登さんを取り上げました。ほんとうに頭が下がる思いです。

特集では、「安方の昔」につづき「蓮沼の昔」です。これもよく調べられた内容で、非常に興味をそそられる記事になったと思います。

「ご存知ですか」では、原村梅林の記念碑の移設に関する記事を取り上げました。

ぜひ、愛読くださるよう、よろしくお願いいたします。

また、わがまちの顔で特集してもらいたい人物や団体がありましたら、左記の事務局までお知らせください。

情報紙に対するご意見やご感想、また投稿などを事務局までお寄せください。

事務局　蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七―十二―七
（三七三二）四七八五